

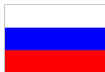
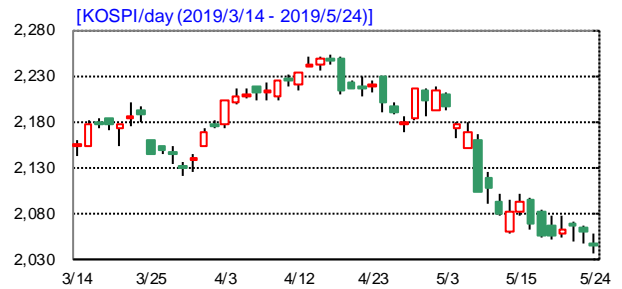


【韓国】 総合指数は週間で0.5%安と3週続落、今週も米中摩擦が重荷か

先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.5%安と3週続落した。前週末に約4カ月ぶり安値で終えただけに、週前半は反発狙いの買いが相場を支えた。週明け20日はほぼ横ばいで、21-22日は小幅に続伸した。ただ、米中貿易協議の行き詰まりや世界経済に及ぼす悪影響への警戒感が上値を抑え、週後半は再び売り優勢。中国の通信機器大手、華為技術（ファーウェイ）に対するトランプ米政権の輸出禁止措置の影響が世界中に広がり、ハイテク覇権をめぐる冷戦に発展にしかねないとの懸念が地合いを冷やした。半導体のSKハイニックスなどハイテク株の一角が売られた。24日終値は1月上旬以来、約4カ月半ぶりの安値を更新した。今週は引き続き米中摩擦が重荷か。国内では中銀基準金利や貿易収支などの発表が予定されている。

▼指数チャート

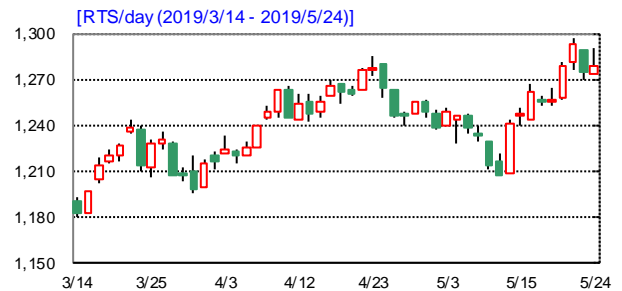


【ロシア】 RTS 指数は週間で1.9%高と続伸、今週は売り買い交錯か

先週の動き／今週の展望

RTS 株価指数は週間で1.9%高と続伸。海外勢からの政府債の旺盛な需要を背景にルーブルが上昇し、買いにつながった。週明け20日は米中貿易摩擦の激化に対する警戒感が上値を抑えたものの、対ドルでルーブルが買われたことが好感され、小幅高でスタート。その後もルーブル高を背景にロシア株への資金流入が続き、指数は22日に終値で1292.79ドルと、約1年ぶりの戻り高値を更新した。23日は原油相場の急落を受けて4日ぶりに反落したが、24日は反発して週の取引を終了した。個別銘柄では、資源のノヴァテク(7.7%高)、ガスプロム(2.8%高)、金融のズベルバンク(3.3%高)などの時価総額上位銘柄の上昇が指数を押し上げた。今週は、米中貿易問題や英国のEU離脱問題をにらみ、売り買いが交錯する展開か。

▼指数チャート

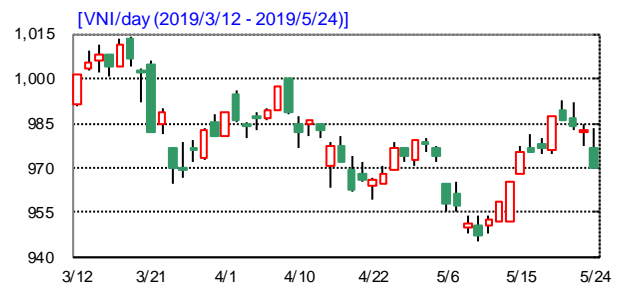


【ベトナム】 ベトナム指数は0.7%安と反落、今週も米中貿易問題に振り回されるか

先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で0.7%安と反落。米中貿易戦争の長期化懸念からリスク回避の流れが強まり、資金が流出した。週明け20日は1.1%高と好調なスタート。トランプ米大統領が、米国が中国製品に追加関税を課すことで企業は生産拠点を中国からベトナムなどへ移すだろうと述べ、市場で好感された。ただ、ハイテク分野をめぐる米中対立を受けて東南アジア圏の景気見通しが悪化し、指数は21日から4日続落。24日は1.3%安となり、週間でもマイナス圏に沈んだ。個別銘柄では、旅客需要の拡大期待からベトナム航空が5.5%高となった一方、ビナムルク(3.8%安)、ペトロベトナム・ガス(3.4%安)、ビンホームズ(2.5%安)など時価総額上位銘柄の下落が重しとなった。今週は引き続き米中貿易問題に振り回される展開か。

▼指数チャート



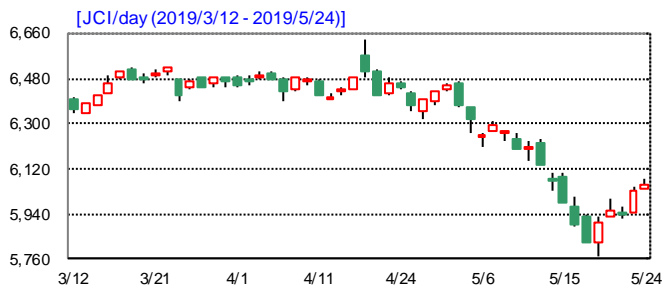


【インドネシア】

【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 4.0%高、大統領選で現職ジョコ氏の再選が確定

ジャカルタ総合指数は週間で 4.0%高と 5 週ぶりに反発。大幅に下落した前週の反動で買い戻された。20 日は金融株が指数上昇をけん引し、前営業日比 1.4%高と 6 日ぶりに反発。21 日は 4 月に投票が実施された大統領選挙の最終結果が発表され、現職のジョコ・ウィドド氏の再選が確定したことで買われた。22 日は結果を不服とする対立候補の支持者が抗議デモを行い、治安部隊との武力衝突に発展した影響で 3 日ぶりに反落したが、23 日は事態の鎮静化を受けて反発し、指数は前日比 1.6%高と終値で 7 営業日ぶりに 6000 ポイントを回復。24 日も続伸して引けた。今週は 30 日がキリスト昇天祭のため休場となる。

▼指数チャート

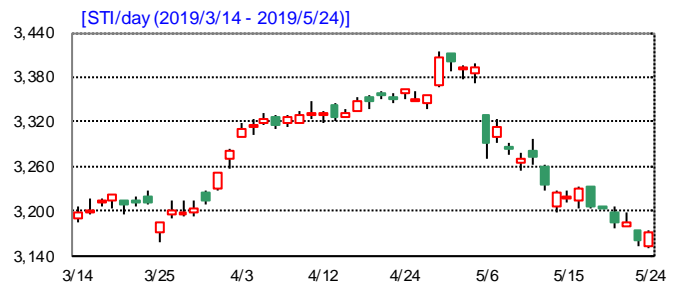


【シンガポール】

【先週の動き／今週の展望】スเตรツタイムズ指数は 1.1%安、経済成長率見通しの下方修正を嫌気

スเตรツタイムズ指数は 4 日間の取引で 1.1%安と 3 週続落。買い材料に乏しく軟調な値動きだった。連休明けの 21 日は貿易産業省が今年の経済成長率の見通しを従来の 1.5-3.5%から 1.5-2.5%に引き下げたことが嫌気されて続落。1-3 月期の GDP 確定値は前年同月比 1.2%増と速報値を 0.1 ポイント下回った。23 日は米国が中国の監視カメラ企業、杭州海康威視数字技術に対する禁輸措置を検討していると報じられ、軟調に推移したが、24 日は 4 月の鉱工業生産が前年同月比 0.1%増と市場予想の 3.5%減から上振れした効果で反発した。今週は国内の経済イベントが少なく、外部要因に左右される展開か。

▼指数チャート

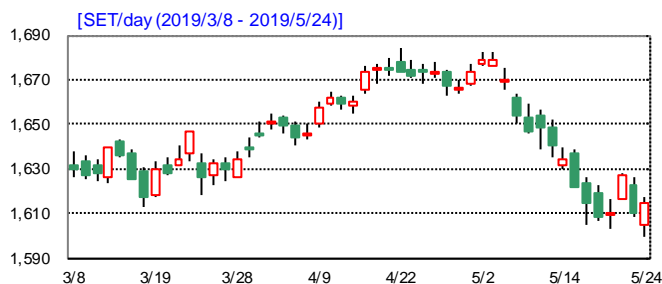


【タイ】

【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.4%高、華為技術への禁輸措置緩和を好感

SET 指数は 4 日間の取引で 0.4%高と 3 週ぶりに反発。おおむね堅調に推移した。連休明けの 21 日は、1-3 月期の GDP が前年同期比 2.8%増と市場予想から下振れしたものの影響は軽微で、指数は 6 営業日ぶりに反発。22 日は米国政府が中国の華為技術に対する禁輸措置の一部に 90 日間の猶予を設けたことが好感され、前日比 1.0%高と続伸した。同日に発表された 4 月の貿易収支（通関ベース）は 3 カ月ぶりの赤字だった。指数はその後、23 日に前日比 1.1%安と反落したが、24 日には買い戻されている。今週は 28 日に 4 月の鉱工業生産、31 日に 3 月の小売売上高が発表される予定で市場予想を上回れば好材料。

▼指数チャート

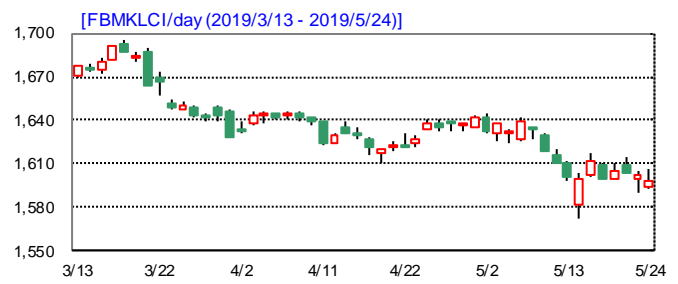


【マレーシア】

【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.4%安、原油価格下落でエネルギー株に売り

クアラルンプール総合指数は 3 日間の取引で 0.4%安と 4 週続落。小幅なレンジでじりじりと下値を広げた。21 日は前日の NY ダウが下落した流れを引き継ぎ反落してスタート。祝日を挟んだ 23 日は米国の原油在庫が約 2 年ぶりの高水準となった影響で原油価格が下落したほか、為替相場で米ドル高リング安が進んだことも嫌気された。24 日もエネルギー株を中心に売り優勢の展開が続き、終値で 1600 ポイントを割り込んで取引を終えている。同日発表の 4 月の CPI 上昇率は前年同月比 0.2%だった。今週は国内の重要イベントが少なく、中国の 4 月の工業部門企業利益と 5 月の公式製造業 PMI が意識されそうだ。

▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。